

学校法人明治学院 2013年度事業計画

I. 学校法人明治学院の事業計画

1 明治学院創立 150 周年記念事業・行事の推進

明治学院の起源は、1863（文久 3）年に米国医療宣教師 J.C.Hepburn（ヘボン博士）が横浜の自宅に開設した「ヘボン塾」（英学塾）にあり、2013 年には日本のキリスト教学校として最も早く創立 150 周年を迎える。創立者ヘボンの建学の精神に基づいてこれまで脈々と受け継がれてきた明治学院の教育を今、改めて「現在」に問いかけながら、「将来」に向けての飛躍へと繋げていくことが求められている。

明治学院はヘボン塾開設 150 周年を記念して、2013 年度を中心に下記の事業・行事を実施する。

(1) 記念事業

- A 『明治学院 150 年史』の刊行
 - B 一貫教育体制および生涯学習環境の整備
 - C 『21 世紀ヘボンプロジェクト』（大学）
 - D 高等学校の校舎改築
 - E 白金キャンパスのランドデザインの策定
 - F 東村山キャンパスの整備
 - G 奨学金制度の充実
 - H スポーツ・文化交流の奨励
 - I 国際交流の強化
 - J 日本近代音楽館の維持と一般公開
- <特別事業> 「和英語林集成」（初版）復刻版刊行

(2) 記念式典・主な記念行事の概要

- A 2013 年 10 月 26 日（土） 明治学院創立 150 周年記念式典
当日は、午前中にチャペルにおいて「創立記念礼拝」を行い、午後にパレットゾーンで「創立 150 周年記念祝賀会」、その後再びチャペルにおいて「創立 150 周年記念音楽会」を行う。
- B 主な記念行事
 - ・チャペルコンサートシリーズ 2013（全 3 回 5 月 18 日武久源造オルガンリサイタル、6 月 19 日、ヨス・ファン＝デア＝コーイオルガンリサイタル、2014 年 1 月 11 日 J.S.バッハのオルガン全作品シリーズ Vol.3）
 - ・「明治学院の音楽 150 周年」（6 月 14 日～15 日 日本リードオルガン協会との協賛による礼拝、コンサート、講演会）
 - ・「1 Day for Others」（6 月 15 日 ボランティアセンター主催）
 - ・「チャリティコンサート A Song For Japan」（6 月 16 日 校友会主催）
 - ・「五線譜に描いた夢—日本近代音楽の 150 年」展（10 月～12 月 東京オペラシティ）
 - ・「ヘボンと横浜～明治学院の 150 年」展（10 月 18 日～12 月 27 日 横浜開港資料館）
 - ・創立 150 周年記念学生生徒による演奏会（11 月 9 日 東京オペラシティコンサートホール）
 - ・150 周年記念ホームカミング（11 月 23 日 同窓会主催） 他
- C 学生団体による記念試合、イベント
 - ・「明治学院対第一高等中学 野球試合」（11 月 24 日 神宮球場 体育会野球部）他、体育会各部

による記念試合、イベント

- ・オール明治学院大学グリークラブ演奏会（11月10日 白金チャペル）

D 講演会、シンポジウム

- ・記念特別講演会「激動の世界における日本の転換点Ⅲ」
2013年春「少子・高齢・格差社会を超えて」（全4回 5月31日～）
- ・記念特別講演会「激動の世界における日本の転換点Ⅳ」
2013年秋（10月～12月）
- ・「変動期における平和学の役割－明治学院と平和学」（10月～12月 国際平和研究所）
- ・記念講演会「キリスト教と教育」（全3回 明治学院高等学校主催）
- ・活躍する卒業生による講演会（全4回 4月～7月 同窓会主催）
- ・経済学部「明学150周年記念 ビジネスプランコンテスト」（11月） 他

E 学生・生徒による東日本大震災被災地支援活動

- ・大学：P12 5 ボランティア活動の支援と展開の項参照
- ・高校：P13 2(1) 参照
- ・中学・東村山：P18 1(7) 参照

記念行事等の詳細は、明治学院創立150周年記念サイト（URL:<http://mg150.jp/>）を参照。

(3) その他の企画

- A 学内の150周年の機運を盛り上げるため、明学生による150周年記念ロゴマーク、キャッチフレーズを、中学から大学までの学生生徒から公募した。2013年度を中心に、最優秀賞作品を配布物、記念グッズ等の学内コミュニケーションに活用する。
- B 白金キャンパス、横浜キャンパスで150周年を記念する装飾を行い、学生生徒、教職員、来訪者にビジュアルにアピールする。
- C 上記明治学院創立150周年記念サイトをリニューアルし、学院の行事を包括的に広報する。

(4) 明治学院創立150周年記念募金

2013年度は150周年の記念年度として、募金の「種蒔き」から「刈り取り」の成果を上げるため、一層の募金活動に注力する。特に12万人といわれる卒業生に対して様々なルートからの募金依頼を強力に推進する。なお、募金者へは、オルガンコンサートご招待に加え、2013年よりヘボン博士編纂の「和英語林集成」ロンドン版1867年初版の復刻版を、贈呈または優待頒布する。

2 明治学院の教育

2011年3月に「明治学院一貫教育宣言」を発信した。宣言では中学校、高等学校、大学が目指す生徒像、学生像が明らかにされ、明治学院に流れる教育理念を確認した。その成果に基づき、2013年の創立150周年を契機に、さまざまな媒体を通じて学院の内外へ独自性のある明治学院の教育を明確に発信する。また、前年度に引き続き教育体制整備委員会のもとに中学校、高等学校、大学の教職員から構成されたワーキンググループを設置し、中長期的な観点から明治学院の教育体制を検討する。

3 キリスト教活動

(1) 中学校、高等学校、大学を包括した全学院にまたがるキリスト教教育の推進をはかる。

そのために、学院内でキリスト教活動推進会議を随時開催し、学院長の責任のもとに明治学院におけるキリスト教一貫教育の方向性をより具体化、明確化する。キリスト教センター連絡協議会は、これを定例化し学院牧師を中心に日常的に中学校、高等学校、大学の連絡連携を強化し、キリスト教活動推進会議に適切な情報を提供する一方で、同会議の意向を受けて各学校の礼拝、キリスト教活動の充実を目指す。さらに、「キリスト教学校教育セミナー」を通して、勤務員全員に対してキリスト教一貫教育活動

について啓発する。

- (2) 対外活動として、『ペンテコステの集い』等の地域教会との交わりや『クリスマス音楽礼拝』を通して日本基督教団南支区の諸教会をはじめ、他教派キリスト教会および地域社会との交わりを深める。キリスト教学校教育同盟および他のキリスト教学校との関係を強化し、日本基督教団関係学校としての役割を果たす。また対外的なキリスト教活動の一環として、明治学院の学生・生徒・教職員のボランティア活動を通して、被災地への支援を行う。
- (3) 学院役員（理事・監事）が、各学校の礼拝に与り、メッセージ（奨励）を伝えることを実施する。

4 法人ガバナンスと内部統制の強化・推進

- (1) 学校法人の経営に関する中長期の問題を可視化し、優先順位をつけながら問題解決案を検討し、その結果を経営方針に活かすことを目的に、2012年9月に経営問題検討会を設置しているが、2013年度は、特に中長期の安定した学校経営を実現するための具体的な課題に取り組んでいく。
- (2) 法人ガバナンスの強化を行う一環として、私立学校法改正に伴う三様監査の重要性が増している。理事会直轄の監査室を活用して、ステークホルダーに対して説明責任を果たせるよう、2013年度も引き続き監事監査および内部監査に努めていく。内部監査では、内部監査の独立性を担保するため専従の要員を配置する。監事監査では、業務監査・財務監査の他に、教学監査の一環として「公的研究費整備体制チェックリスト監査」を実施し、公的研究費の適正な管理に関する監査を強化する。

5 明治学院の財政基盤の強化

少子化が続く今日の私立学校法人淘汰の時代には、強固な財政力を維持することが不可欠であり、そのため学院の中・長期財政計画に基づいた財政基盤を一層強化することが肝要である。収入の増加と支出の厳正管理に努め、特に有利子負債の圧縮と利払いの縮減、金融資産の堅実かつ有効な運用を推進する。一方では創立150周年記念事業および行事に関しても予算措置を施す。また既存の業務の見直しを行うとともに、業務委託費を含めた総人件費の抑制を図るため、株式会社明治学院サービスの活用と、所要の措置を検討する。

6 白金キャンパスのグランドデザインの検討と横浜キャンパスのエコキャンパス化への取組

- (1) 大学に関しては、1年から4年までの学部一貫教育を推進することが、入学者確保や教育研究面から必要となっていることが指摘された。そのために、2011年度から取り組んでいる白金キャンパスにおける大学および高校の施設の見直しと将来計画（白金キャンパスのグランドデザイン）の策定を継続して行う。
- (2) 地球環境問題とかかわって、「エコ」の重要性が高まっており、教育機関としても率先してこのテーマに取り組んできた。2013年度から「横浜キャンパス向上計画」に基づいて、学部・学科を超え、学生が互いに学び、集える場所と、地域と環境重視の「エコキャンパス」と位置付ける。特に、自律型エネルギーの確保を目標に、太陽光発電と蓄電の設備整備を進める。

7 危機管理体制への取り組み

「東日本大震災」の経験により、学院における危機管理や災害対策の重要性が強く再認識され、各校は防災上の課題について協議し、防災用品の整備、施設設備の再点検、防災計画等を継続していく。キャンパスの安全、危機管理体制についても一層注力していく。

8 奨学金の充実

2012年度に、明治学院創立150周年記念募金の中から「明治学院ぶどうの木奨学金」を創設し、キリスト教牧師が扶養する子に対する就学支援を開始し、2013年度は一層の拡大を図っていく。大学では、学業支援奨学金特別措置（緊急奨学金）や「東日本大震災」被災者への特別奨学金等本学独自の奨学金を設置し、中学および両高校においても、独自の奨学金の充実を図っている。

9 文化活動

(1) 歴史資料館

明治学院歴史資料館は、学院と学院の設置する諸学校の歴史に関する資料および情報の収集、管理を行い、研究・教育の用に供することを目的としている。また、150周年を機に歴史資料館展示の新たな基本構想づくりとそれに合わせた施設整備を行い、資料館を2階から1階に移し、来場者の増加を図る。

(2) 明治学院チャペルコンサートシリーズ

学院の象徴である礼拝堂において、世界的に貴重なオルガンを用いたコンサート活動は、学院の教育を広く社会に還元する文化活動と捉えて「明治学院チャペルコンサートシリーズ」を開催している。このシリーズも2013年度で4年目を迎え、地域や一般の方など幅広い層のファンが定着しつつある。各方面に学院の知名度を高める好機でもあり、今後も内外の演奏家を招いた演奏会を企画し、社会貢献および広報活動の要として努めていく。

(3) 明治学院オルガン講座

パイプオルガンとキリスト教音楽の魅力を広めることを目的として、白金・横浜両キャンパスで講座を開講しており、学院の学生生徒・教職員・学外者（一般、音楽大学生）が受講している。2013年度も初級クラスをはじめ、オルガンの歴史と構造クラス、パフォーマンスクラス、アンサンブルクラスなどの多彩なクラスを開講し、パイプオルガンを有効活用していく。

(4) 歴史的建造物の広報活動

白金キャンパスの礼拝堂、記念館、インブリー館、東村山キャンパスのライシャワー館は、明治学院の広報活動の中で重要な役割を担っているとの認識に立ち、専門誌や受験雑誌等の掲載希望に応じている。2013年度には、記念館、インブリー館が撮影現場となった島崎藤村作『家』の映画が放映される予定である。また、東京都教育庁の企画により、2012年10月末にはインブリー館が東京都の情報番組で放送され一般見学者が増加した。東京文化財ウィークでの公開も継続する。

10 株式会社明治学院サービスとの連携強化

株式会社明治学院サービスは、明治学院の全額出資会社として、学院の教育・研究活動と密接な関係をもつ事業を行っている。2013年度は、学院の教育・研究活動に対して直接・間接的な連携強化を図るとともに、特に大学事務組織の見直しに伴って発生する業務の合理化（事務総合カウンターの設定、図書館業務の一部請負）支援を重点的に推進する。また大学生の就職活動の支援および学院創立150周年記念行事にも積極的な協力体制を築いていく。

Ⅱ. 各部門別事業計画

【明治学院大学・大学院】

〔学部・学科の新增設計画〕

〈大学院・大学〉

なし

〔教育・研究における重点分野〕

〈大学〉

1 教育目標の明確化と教育改善

キリスト教に基づく人格教育という建学の精神、‘Do for Others’（他者への貢献）という教育理念を踏まえ、学生の学修意欲や社会の期待と負託に応え得る教育を提供する。そのために、建学の精神、大学の教育理念および各学科の教育目標に基づき、各学科では既存の教育内容を再点検し、学科および大学全体へと波及効果を持つ改善を推し進めていく。2013年度は「教育研究支援制度」を新設し、学部学科毎に教育内容等の改善充実を促す。

2 学部における入学試験の改革と入試広報の充実

(1) 入学試験の改革

2013年度は、以下の入学試験の改革を行い、志願者の増加につなげる。

A 2014年度入試より、地方入試を仙台、静岡の2会場で実施する。

B 2012年度に見直し作業を実施した新たな指定校リストに基づいた推薦入試を導入し、併せて、キリスト教学校教育同盟加盟校に対する見直しと再編を行う。

(2) 入試広報活動の充実

分かりやすく親しみやすい大学情報の提供、また大学を理解するための直接のコミュニケーションの機会を多角的に提供することによって、多くの出願に結びつけることを目的とし、以下の方針で学生募集活動を強化する。

A 大学案内・受験生専用サイト等の受験生向け広報ツールの整備

B 進学情報誌や進学情報サイト、新聞広告等への積極的な出稿

C オープンキャンパス、One Day Campus（札幌、福岡会場の新設）等の受験生対象イベントの拡充

D 高校訪問や高校教員対象説明会等を通じた、高校の進路指導担当教員に対する情報提供の仕組みの強化

3 国際交流と語学教育の充実

現代のグローバル社会が求める人材の育成と送り出しを目指し、へボン塾を創設したへボン博士夫妻が、国籍・民族を越えて日本の少年少女に英語等を教えたという「英語の明治学院」の原点に立ち返り、国際交流と語学教育の強化に努める。

(1) 留学の促進

留学を希望する学生は年々増加している。国際交流活性化の方針に基づき、さらなる派遣留学生数増加と横浜校舎の交換留学生数増加を目標とし、協定校の新規開拓を目指す。同時に語学力の底上げを図らなければならないため、2012年度に増設したTOEFL講座数を維持する。

(2) 留学派遣数の増加

留学生の経済的な負担軽減のための奨学金の充実は必要である。現在、申請者に一律50,000円が支給されるが、社会情勢を見ても厳しい経済事情の中で留学にかかる費用負担は大きく、一律でなくても、経

済的な事情で留学を諦めるケースを救済するような手段を検討する。

(3) 留学への動機付け強化

留学フェア等の実施により、本学の留学の仕組みを知り、留学経験者からの情報収集等、より現実的なものとしてとらえられるような機会を提供する。また、フェイスブックを活用してコミュニケーションの輪ができるような環境を整える。さらに留学に向けた学修指導を充実させるため、教員による留学アドバイザー制度の設立を検討する。

(4) 留学生の受入拡充

校内での国際交流をより活発化させ、在学生の留学に対するモチベーションアップにつなげる。そのためにも送り出しと同様、協定校の開拓、また、協定外有料受入留学生の増加を図る。その一つの手段として海外への本学の情報発信が重要であり、2013年度は広報、主にホームページの更なる充実を行う。

(5) 留学生の受入体制

留学生寮の拡充は必須であり、現在の「奥沢ハウス」・「MISH」の他に、国際キャリア学科用に確保している戸塚駅西口の賃貸マンションの部屋数を必要に応じて増加する。また、管理の効率化を鑑みて、横浜校舎を本拠地とする留学生を1か所に集めることを模索する。

なお、留学生受け入れプログラムの充実を図るために、現在、白金校舎のみで展開している International Student Program を今後横浜校舎でも実施していくこととし、白金・横浜における同レベルの授業の提供や、現在留学生用に外注で開講している「クールジャパン」等、留学生の関心の高い魅力のあるプログラムの開講を実施する。

(6) 語学教育の充実

「語学の明学」との評価を受け得るような教育カリキュラムの検討を開始する。総合企画室に担当室長補佐を置き、本学の語学教育を「学生目線での語学教育」「キャリア教育の視点からの語学教育」「学部専門教育の視点からの語学教育」の3つの視点から再構築を図る。また、教養教育センターが開設しているランゲージラウンジを、大学全体規模の位置づけとしてその充実を図り、学部学科学年を超えて「語学」を「互いに学ぶ（互学）」できる空間となるように整備を推進する。

4 自己点検・評価活動の継続と情報公開の拡充

2009年に行われた大学基準協会による大学評価（認証評価）において、本学は「適合」と認定された。この評価は2010年度より2016年度まで7年間有効であるが、その間、中・長期を展望した教学改革を始めとする、様々な改善計画を推進する。2013年度も引き続き、自己点検・評価の実施と認証評価により指摘された問題点に対する改善努力を、外部評価委員会の再評価に委ねたい。これによって、教育・研究の質のいっそうの向上を図り、加えて自己点検・評価の結果と外部評価委員会の年次報告書をHPに公開する。

情報公開の拡充について、法令および社会との関係に鑑み、積極的かつ適正に公開するため、情報公開に関するポリシーの策定に着手し、より見やすくわかりやすい公開を、2013年度中に実現する。

5 キャリアサポート体制の強化

(1) キャリア教育

既に各学部、教養教育センターにて開講しているキャリア形成科目を、2013年度も継続して開講する。併せてその充実について、2012年度に設置した、キャリア教育充実に向けたプロジェクトでの検討を促進する。

(2) キャリア支援

キャリアセンターでは、学生生活を充実させることをベースに、自己理解・社会人基礎力・社会や職業との接続の3点を伸長させることを目指した支援を行う。具体的には、入学時の進路オリエンテーショ

ンとキャリアガイドブックの配布、1、2年各年次に開催するキャリアガイダンス、企業との協働による学内インターンシップ「仕事発見プログラム」の実施などである。他に教員、公務員、民間企業、大学院進学について進路別にガイダンスを1～3年次対象に実施し、学生生活と進路との接続を図る。また、体系的段階的なキャリア支援を目指した取組を開始する。

(3) 教員志望者への支援

2012年度には、教職キャリアアドバイザーが2名に増員され、教職を目指す学生に対するきめ細やかな支援体制が実現した。また、心理学部教育発達学科の学生が3年次に進級し、白金キャンパスにおける教育活動の本格化に伴い、大学13号館を竣工し、教育キャリア支援課の移転・独立および教育発達学科の実習講義室を備える設備が整った。

2013年度には、教育発達学科が完成年度を迎え、教員採用試験をはじめとする就職活動時期の学生へのサポートを行い、これまでの中等教育の教員に加え、初等教育の教員を多数、輩出する予定である。

(4) 公務員、資格取得

公務員、司法書士、行政書士、税理士、会計士、簿記、語学等の課外講座を法学部、経済学部、教養教育センターが実施する他、パソコン資格である「MOS」取得講座、公務員模試、官公庁任用担当者による公務員採用試験制度等説明会、官公庁でのインターンシップの紹介をキャリア支援課が実施する。

(5) 3年生向け就職支援

企業は早期に自発的に動く学生に優秀な学生が多いと考え、そうした学生＝アクティブ層に対し重点的に採用プロモーションを行う。アクティブ層をより厚く形成するために、キャリアセンターでは以下の取組を行う。

- ・春学期にインターンシップガイダンス、事前指導、インターンシップ先の情報提供と紹介、さらに学内で行うインターンシップ「仕事発見プログラム」、へボン・キャリア・プロジェクト、新設予定の「MGキャリア講座」、3クラス増を予定する秋学期実施の「就活ステップアップ講座」といったプログラムにより、アクティブ層の更なる増加を企図する。
- ・民間企業就職活動のガイダンスの他、大学院生向け、外国人留学生向け、Uターン希望者向け、福祉分野希望者向けのガイダンスも実施する。ハンディキャップ学生には個別に対応していく。企業との関係構築の取組としては、長期安定採用企業の分析とそれを反映した学内会社説明会開催、各種の企業との交流会・意見交換会出席の他、2012年度より東京商工会議所に入会し、中堅・中小企業との関係構築、緊密化に取り組んでおり、2013年度も一層の充実を図る。

(6) 4年生就職活動継続学生支援

キャリアセンターでは、2013年度は白金校舎に専門的相談員の配置を拡充、また横浜校舎への専門的相談員配置も新たに行い、個別支援を増強する。また、学生の進路報告を促進するため、ボールペン付きサブツールを制作し、最終進路アンケートを実施する卒業証書授与会場にて、配付する。さらに、月1回ペースで面接セミナーや就職ガイダンスなどを行い、学生の心のケアと就職活動トレーニングを組み合わせたプログラムを通年的に実施する。4年生就職コーディネーター配置の継続、新就職支援システムの導入、ハローワークとの連携強化により、就職紹介体制の一層の充実を図る。

(7) 卒業生就職支援

校友会の財政支援に基づき、2013年度も卒業生就職支援室の取組を継続する。具体的には、人材サービス企業と提携し、当該企業内に「明治学院大学卒業生支援室」を設置して、卒業生の就職や転職に関するキャリアカウンセリング、大学の求人情報の提供、履歴書・職務経歴書の添削・アドバイス、面接対策講座・マナー講座の受講、就職活動の支援と職業紹介などの支援を行う。

(8) 文部科学省補助金による取組

2012年度より新たに「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」が立ち上がり、都内17校と共同で、産業界のニーズの把握、社会的・職業的自立力の測定手法の開発、産業界との連携による人材育成プログラムの開発といった内容に2014年度まで取り組む予定である。

6 学生への総合サポート体制の充実

(1) 2013年度より学生サポートセンターを総合支援室と改称し、その部門として、心理相談部門（学生相談センター）、健康支援部門（健康支援センター）、修学支援部門（学生サポートセンター）を置き、各部門の連携強化を行う。同時に新たに総合支援委員会を設置する。学生支援に関する総合的検討を行い、それにより、身体、精神の疾患・障がい、修学、対人関係・心理、進路・就職等の問題に関連して困難が生じている学生に対し、情報を共有しより速やかにかつ包括的に必要な専門的支援の充実を図る。また、将来的に関連部署との統合を模索し、学生支援の一元化を検討する。

(2) 2013年度には、以下の課題に取り組み、さらにサポート体制の整備を行う。

ア キャンパスのバリアフリー化の推進

イ 健康診断のデータ化・システム化の推進による情報の共有化

ウ 各学部・事務部門との連携によるサポートの促進

エ 疾病予防や危機管理体制の確立

(3) ハラスメント人権委員会およびハラスメント相談支援センターでは、2011年度に新たに掲げた「ハラスメント防止宣言」に基づき、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントといったハラスメント問題を未然に防ぐための啓発活動を継続的に行うとともに、他部署との連携を進めながら、学生・教職員への相談支援体制の充実を目指す。

7 学業支援の強化

学内の奨学金体系の見直しを行って2011年度からスタートした「へボン給付奨学金・保証人会へボン給付奨学金」（経済援助を目的）は、その支援内容および支援総額の充実を図った結果、多くの学生への支援がなされ、採用者数は2011年度402名、2012年度412名であった。学内奨学金としては他にも、学業優秀者を表彰する「明治学院大学学業優秀賞」、留学者の学業を奨励する「明治学院大学認定留学奨学金」、社会福祉および心理学領域への志望者を対象とした「小野國嗣基金」などがあり、2013年度も実施する。併せて、各制度について、その有効性などの点検を実施する。

また、2011年3月に発生した東日本大震災で被災した学生の学業継続を目的とした学費減免措置（東日本大震災・長野北部地震被災者学費減免特別措置）は、2011年度は総額1億円を超え対象学生数は187名、2012年度は対象学生が186名に対し被災規模に応じて減免額を縮小したこともあり総額6300万円となった。保証人会および校友会からも支援をいただいている。この措置に関しては2015年度まで継続することが決定されている。

8 一貫教育の充実と地域への貢献

「明治学院一貫教育宣言」により表明された一貫教育の実現のために、教養教育センターと両系列校との間の「J.C. バラ・プログラム」を継続、発展させる。また東村山高等学校設置科目「アカデミック・リテラシーⅡ」への協力等により、両系列校からの良質の入学者の確保を目指す。さらに各学部と大学院各研究科の接続を密接にし、各学部から良質の大学院進学者を送り出せるように努力する。

地域への貢献では、2013年度もこれまで継続してきた東京都港区ほかとの連携事業および島崎藤村ゆかりの長野県小諸市との連携事業をいっそう発展させる。また戸塚地区において地域への貢献を引き続き推進する。そのほか新たな自治体・公的団体との連携を模索し推進する。

9 日本近代音楽館の一般公開

(1) 音楽資料の特性に対応可能な新音楽館システムの運用を開始する。より正確に目的の資料を探せる環

境を利用者に提供するため、新システムでは音楽館が所有する資料とそれに関連する様々な典拠データをリンクした構造のデータベースを構築する。

- (2) 音楽館の存在と活動意義を広めるため、レクチャーコンサートを定期的に行う。
- (3) 活動内容を広報するため、館報の発行を本格化させる。
- (4) 創立 150 周年記念にあたり、「五線譜に描いた夢—日本近代音楽の 150 年」を開催する。

10 外部研究資金の獲得

外部研究資金獲得者に対する研究費インセンティブ制度が 2009 年度から開始され、科学研究費補助金は 2008 年度 30 件、2009 年度 36 件、2010 年度 46 件、2011 年度 40 件、2012 年度 41 件と増大傾向を示している。2013 年度も引き続きこの政策を継続していく。

<大学院>

1 大学院の活性化

7 研究科 11 専攻からなる大学院は、少数精鋭教育により学問への探究心旺盛な学生の養成をめざすことに重点を置いていく。

2 法科大学院学生募集停止後の教育条件の維持・確保

法科大学院は 2006 年度 8 名、2007 年度 11 名、2008 年度 16 名、2009 年度 9 名、2010 年度 9 名、2011 年度 5 名、2012 年度 5 名、合計 63 名の司法試験合格者を出している。

なお、志願者の激減という極めて厳しい環境のもと、2013 年度の新入生の募集を停止し、2016 年度までは、現在の教育体制をほぼ維持し、学生に対する教育水準を確保する。また、聴講生制度を利用して修士支援をより強化する。

3 教学改革の推進

心理学研究科は、その臨床部門である心理臨床センターの本格稼働により、実践的な教育・研究活動を展開する。心理臨床センターは高輪校舎への移設により、学外利用者が 2009 年度 1794 名、2010 年度 1961 名、2011 年度は 1935 名に減少したものの、高い水準を維持している。スタッフや施設の充実した「心理相談クリニック」の開設によって、臨床経験に根ざした教育研究が可能となり、研究者、教員、障がい児、障がい者のための指導者、子育て支援従事者、成人・高齢者支援従事者等の専門家の養成を強化し、さらに（財）日本心理士資格認定協会から指定を受けた大学院として、臨床心理士養成のための機能を発展させていく。

4 大学院広報の強化

大学院志願者の増加を図る施策の一環として、2009 年度から導入された「大学院統一オープンキャンパス」に加え、2011 年度より大学院広報に注力している。学部からの一貫教育の強化を企図し、各学部と各研究科（法科大学院を含む）を接続する説明会を開催しており、2013 年度も継続する。

5 大学院教育体制の整備

2010 年度に大学院（論文）指導教員の学部責任コマ数を 1 コマ軽減し、より本格的な大学院教育に専念できる環境を用意した。2013 年度は、海外からの大学院留学生の獲得と、大学院における二重学位制度の確立を目指す。

6 大学院研究環境の整備

2010 年度より社会学研究科、2011 年度より法学研究科では、院生に対する研究科独自の奨学金が用意された。2013 年度も TA（ティーチング・アシスタント）制度をさらに活用し、各研究科の院生の研究環境の向上を図っていく。

〔学生・生徒の募集計画〕

1 2014年度生大学院募集計画

研究科	専攻	博士前期	博士後期
文	英文	12	2
	フランス文	10	5
	芸術	10	5
経済	経済	10	3
	経営	10	3
社会	社会	10	2
	社会福祉	10	3
法	法律	—	5
国際	国際	10	2
心理	教育・発達心理学コース	10	4
	臨床心理学コース	20	

計 146名（前年度同数）

2 2014年度生大学募集計画

学部・学科		募集人員
文	英文	200
	フランス文	105
	芸術	140
経済	経済	290
	経営	180
	国際経営	140
社会	社会	230
	社会福祉	240
法	法律	280
	消費情報環境法	175
	政治	120
国際	国際	220
	国際キャリア	50
心理	心理	160
	教育発達	100

計 2,630名（前年度同数）

〔その他の特記事項〕

1 図書館サービスの充実

- (1) 利用者ニーズに合わせた図書館全体のゾーニングについて見直しを行い、整備計画を立案する。2013年度は近年特に需要の高い、提示装置を備えたグループ学習向けの部屋を館内に整備する。

- (2) 図書館の利用方法や各種データベースの活用方法を習得できる Web コンテンツを図書館で独自に作成し公開することで学生の情報収集力と活用力の向上を図る。
- (3) 横浜図書館において地域連携の拡大を模索する。
- (4) 創立 150 周年記念事業として、「五線譜に描いた夢ー日本近代音楽の 150 年」展を東京オペラシティアートギャラリーで開催する。幕末維新期に始まる日本近代音楽の歴史をたどる展覧会で、図書館付属日本近代音楽館が所蔵する資料を中心に、全国の資料館、美術館などに残された資（史）料を一堂に集め、ダイナミックに構成される。

2 校友センターによる校友（会）サポート

校友センターは、校友会活動（卒業生の全てが会員）を通して明治学院大学の存在感をより強く社会に示していくことを目的としており、大学と校友との橋渡しとなるサービスを展開している。

2013 年度には 150 周年事業としてのサービスも展開するとともに、基盤となる校友会システムを再整備していく。

- (1) 校友 Web サイトのさらなる充実、メールマガジンの発行等、情報伝達の基盤を整備し、校友会報誌(年 2 回発行)、150 周年特集リーフレットで情報発信する。
- (2) 例年の行事としては、卒業 10 年ごとに母校にご招待する「校友の集い」、各道府県で開催する「各地校友会」を 8 個所で開催する。また、2008 年度から開催している「ヘボン塾校友講座」では、「植村正久、島崎藤村、賀川豊彦」をテーマとして取り上げる予定である。この講座はキリスト教研究所と共催で、母校への理解を深め、校友が明治学院のアイデンティティを共有することに役立っている。
- (3) 2013 年度は 150 周年企画として、校友センター主催でチャリティーコンサート（オルガンとトロンボーンアンサンブルとの共演）を開催する。また、事業として、明治学院で歌われてきた多くの歌を CD に記録する。
- (4) 大学が推進するスポーツプロジェクトを支援するため、成果が上がったクラブに対し、資金援助による支援を開始する。このスポーツの活躍を通じて全国に本学の名前を広め、全国の校友からの期待に応えたい。
- (5) 2013 年度には学内での卒業生情報を一本化し、さらに一步進めて、明治学院同窓会が保有する卒業生データ(大学部分)と校友データを一本化するために、実務レベルの検討を開始する。

3 広報活動の展開

創立 150 周年を迎えるにあたって、本学の Identity を掘り下げるコンテンツを充実させるとともに、学部学科等の教育研究の成果や学生による‘Do for Others’の実践等を具体的に紹介していくことで、社会的な存在価値を際立たせる広報展開を継続する。

また本学の教育理念や学部学科等の教育目標が教職員や学生にとっても実感でき、意識の共有をはかることができるように、学内における情報発信にも重点を置く。それに伴って、創立 150 周年を周知する学内装飾や、デジタルサイネージの設置を進める。

4 災害対策の整備

東日本大震災後、大学が 2012 年度までに実施した対策は下記の通りであり、これらの項目についても 2013 年度は更なるレベルアップを図っていく。

- (1) 備蓄に関しては、乾パン 1 万食、水 1 万本、エマージェンシー・シート 3000 枚等を白金・横浜両キャンパスに備えたほか、無線機を追加購入し、災害時には災害対策本部の各班別行動時に活用できるようにした。
- (2) 避難訓練については、2012 年度に、全職員による防災訓練を実施したほか、白金キャンパスでは学生を動員した訓練を行い、また横浜キャンパスでは定期的に机上訓練と実地訓練を行っている。

(3) 2011年度に緊急時における学生の安否確認システムを導入し、学生への連絡については、緊急避難先届け出票や携帯メールの利用を図っている。また教職員における緊急時連絡システムの導入も計画されている。

5 ボランティア活動の支援と展開

学生が震災支援をはじめとするボランティア活動を通して、社会への貢献を行うと同時に、学生自身が学び成長するプログラムとしての進化を促す。以下の5つの事業をその柱として活動を展開する。

(1) 震災支援活動 「Do for Smile@東日本」プロジェクトの質的な充実

岩手県大槌町との連携協定に基づく本学独自の支援、東北学院大学を中心とする大学間協力による支援および NPO と協力してすすめる陸前高田における活動など、三地域に対して三様の支援を継続的に実施する。150周年記念企画としてへボン吉里吉里未来塾（仮称）を開講し、被災地の地域再生を支援する本学の学生の育成に努める。被災地を訪問する本学留学生へのサポートや全国から反響が大きかった冊子「吉里吉里から」を英語で作成するなど、海外への情報発信をも視野に入れる。

(2) 地域活動

白金・横浜校舎近隣の地域活動を展開し、相互の活動に関する情報共有と連携を行い、地域との係わり方を考察しながら、その結びつきを深める。

(3) 1 Day for Others（一日社会貢献活動）

150周年記念事業として、1 Day for Others の拡充を行い、新たに卒業生や保証人との協力によりプログラムを増やし1,000人以上の学生の参加を目指す。

(4) ボランティア活動の啓発と促進

ボランティアチャレンジファンド賞による学生への助成や NGO アカデミー（講師を招いての社会貢献に関する講座）、海外 NPO による震災支援の講習会などの開催を実施する。

(5) 国際ボランティアの展開

学生からの要望が多い海外でのボランティアを企画する。

その他に、活動を支える支援体制の整備として、学生メンバーを組織化し情報共有の迅速化をおこない、ホームページの更新を行い活動する学生からの発信力の強化を図る。

(6) 日本赤十字社との共同宣言

共に創立150周年を迎える日本赤十字社とボランティアパートナーシップを結び、共同してボランティア活動を実施する。

6 横浜キャンパスにおける通学手段の改善

学生の通学における利便性の向上のため、まずは本学南門から戸塚駅までのバス便に「急行便」を設定し、大学がこの急行便乗車代金の一部を負担することで、学生は100円で乗車できるものとした（通常便は正規乗車料金の210円）。次の段階として、戸塚駅から本学南門までの登校時の急行便運行を目指すとともに、スクールバスの導入も合わせて検討する。

【明治学院高等学校】

〔新增設計画〕

2013年4月の改組・増設はなし

〔教育・研究における重点分野〕

キリスト教に基づく人格教育により、ひとりひとりが (1)互いに大切に思う心を育む、(2)真理を探究する力

をつける、(3)他者と共に生きる力をつける、ことを目指している。この教育理念は、ヘボン、ブラウン、フルベッキら学院創立者の建学の精神を受け継ぐものであり、「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書第 22 章 39 節)という聖書の御言葉を基盤にしている。この理念にそって具体的な教育活動を進める。

1 キリスト教教育

- (1) キリスト者専任教職員や学院牧師による礼拝、準宣教師による英語礼拝、学院理事・監事による礼拝、教会の牧師および社会的活動を続けている信徒による特別礼拝(イースター、母の日、ペンテコステ、キリスト教教育週間、クリスマス、卒業、信教の自由を守る日)により、生徒・教職員が聖書の御言葉を学び、キリスト教の精神が育まれるように努める。また、本年度は学院創立 150 周年を迎えたことに鑑み、生徒に対する創立 150 周年記念礼拝を行う。
引き続き、キリスト者ではない専任教職員によるアッセンブリー(講話)を実施する。
- (2) キリスト教諸行事に関するプログラム(宿泊研修会、聖書について語る会、明治学院にゆかりのある先人への墓前礼拝及び清掃、アドヴェント礼拝など)の充実を図る。
- (3) 学院牧師や大学の教員を招いて教育研究会をひらき、広くキリスト教教育について学び合う時を持つ。
また、生徒や教職員が明治学院や広く日本社会に力を尽くした学院関係者について知る機会を持つ。
- (4) 音楽教科と連携して全員へ讃美歌の指導をすすめる。また、希望する生徒を選抜し学院オルガニストによるオルガン指導をすすめる。
- (5) キリスト教活動広報誌『からし種』の発行、生徒による聖書を主題にした絵画作品の掲示、オルガン・コンサート等を通して、生徒、保護者にキリスト教活動についての理解が深まるように努める。
- (6) キリスト教学校教育同盟関東地区中高部会主催の榛名ワークキャンプ、学院主催の小諸ワークキャンプに生徒が参加できるように努める。

2 150 周年記念行事の取り組み

- (1) 2012 年度は東日本大震災で被害を受けた方々へのコンサートやボランティア等を実施した。2013 年度も引き続き、被災した方々のために祈り、また被災した地域の高校生を招き、音楽・スポーツの交流、ボランティア支援を実施する。
- (2) 明治学院で学び、それぞれの時代を生きてきた証言集『明治学院とわたし』を刊行し、在校生・卒業生と共に、学院の教育の歴史と実践を分かち合う。
- (3) 2013 年秋に、キリスト者で社会的活動や教育に携わっている人、建学の精神に合うようなキリスト教活動や他者のために仕えている人を招き、在校生への講演会を行う。
- (4) 2013 年秋に、インブリー博士にちなんだ記念スポーツ試合として東大附属中等学校 対 明治学院の軟式野球試合(神宮球場)を行う。
- (5) 合唱コンクールの自由曲の楽譜で著作権の取れるものを中心に『明治学院高校合唱曲集』として出版する。
- (6) 150 周年記念グッズとして次のものを製作し、在校生や同窓生に記念として配る。

①150 周年記念しおり ②オリジナル讃美歌カバー ③150 周年記念明学バッグ ④和てぬぐい

3 カリキュラムの検討と学力の向上

- (1) 1 年次では基本的な学力をつけるカリキュラム、2・3 年次では多様な進路を見すえた選択カリキュラムを実施する。また、長い間検討してきた新カリキュラムを 2013 年度から実施する。
- (2) 『学習の手引き(シラバス)2013』を作成し、生徒の計画的・主体的学び、教員相互の学習・授業の改善に役立てる。また、選択科目の履修にも役立てる。
- (3) 生徒たちの知識・教養の蓄積と共に、語学への意欲を喚起するために『ブックリスト』(文庫 100 冊、新書 100 冊、英語多読図書 100 冊など)を作成し、教科と連携して読書指導をすすめる。

- (4) 教科に対する理解が遅れている生徒への補習、教科を深く学びたい生徒への講習、進路実現のための講習をより一層充実させる。
- (5) 音楽・美術・書道などの芸術教科、調理実習・被服実習・消費者教育を取り入れた家庭科、パソコンを使って「調べ学習と発表の力（プレゼンテーション能力）」をつける情報科など、より豊かな人間力をつけるために実技を伴う教科にも力を入れる。
- (6) 2013年度からの新カリキュラムに基づき「英語の明治学院」に相応しい英語教育の強化に加えて、実際に活かせるフランス語・韓国語講座も実施する。
- (7) 数学の授業の充実をはかるため、少人数による習熟度別授業を引き続き実施する。

4 生徒の多様な進路実現のための、きめ細かい指導

- (1) 「一人ひとりを大切にする進路指導」により「生徒のさまざまな夢をサポート」することを基本方針とする。
- (2) 1年生は、「学力の充実と外の世界に目を向ける」ことを目標にすえ、「基礎学力」の養成に努めると共に、様々な価値観・生き方を知ることによって将来の可能性が広がるよう指導する。
- (3) 2年生は、「将来の目標と自己の適性の発見」を目標にすえ、「発展学力」の獲得に努めるよう指導する。
- (4) 3年生は、「一人ひとりが自分の道を切り開く」ための「実現学力」の確立に努めるよう指導する。
- (5) 学年ごとに、学年・進路通信『ほっぷ』（1年）・『すてっぷ』（2年）・『じゃんぷ』（3年）を定期的に発行する。
- (6) 大学入試のための講習・補習を実施すると共に、一人ひとりの進路に合わせた指導を行なう。
- (7) 各学年とも、進路ガイダンス、全国模擬テスト、英語 GTEC (Global Test of English Communication) を実施し、進路選択と学力の向上をめざす。
- (8) 生徒の学習や生活について、保護者の理解と協力を得るために、2013年度から『保護者の手引き』を作成する。

5 高大連携の推進

- (1) 「明治学院一貫教育宣言」により表明された一貫教育の課題を積極的に担う。特に、「宣言」に記された 21 世紀のグローバルな世界に通用する人格と実力を兼ね備え、他者と共に生きることのできる 21 世紀の市民を育成することをめざす。
- (2) 明治学院大学系列校特別推薦入試に関する情報交換を密にし、特別推薦入試に相応しい生徒の進路指導を徹底する。また、学力面と共にキリスト教活動、スポーツ活動、ボランティア活動など、明治学院の一貫教育の特色を生かし、明治学院のアイデンティティーを持った生徒・学生を育てるように努める。
- (3) 明治学院大学進学予定者には、大学と協力して各学部による大学入学前教育に取り組む。また、教養教育センター主催の「J.C.バラ・プログラム」にも積極的に取り組む。
- (4) 中・高・大合同の英語教育検討会議に参加し、一貫教育における英語教育の進展を図る。
- (5) 高校図書室と大学図書館の交流を密にし、読書教育・図書館利用教育の側面から高大接続教育に取り組む。
- (6) 明治学院大学が提供する講義科目の受講、明治学院大学生の教育実習およびジョブサポーター制度（社会福祉学科）への協力、ボランティア活動の協働など多様な分野で高大の連携をはかる。
- (7) 高 2 生に対する明治学院大学および他大学の教員による模擬授業、3 学期に高 3 生で明治学院大学進学予定者および他大進学予定者に対しての特別講座を開き、大学への準備及び教養を深める学習を実施する。

6 行事・課外活動の充実

- (1) 校外ホームルーム、水泳大会、オリーブ祭、合唱コンクール、体育祭など、さまざまな行事を生徒た

ちの手によって運営し、自主性と協調性を育む。

- (2) 学習、クラブ活動、クラス活動、家庭学習のバランスをとって、豊かな高校生活を過ごせるように指導する。

7 教育研究活動の充実

- (1) 生徒を取り巻く教育環境や現代の生徒の心身の状況について、学校教育研究会(教研)、拡大学年会、PTA 学習会、保護者会（全体及びクラスPTA）などを通して、教職員、養護教諭、スクールカウンセラー、保護者が共に学び、話し合う機会を増やす。
- (2) 新カリキュラムの教育内容のうち、ボランティア講座や高大連携講座の実施に向けて互いにプログラムを研究していく。
- (3) 教員免許更新制度の推移を見守りながら、該当者は研修が保障されるよう校務の軽減をはかる。

8 総合学習の整備・発展

- (1) 1年生は「キリスト教と明治学院」をテーマにガイダンス合宿と横浜フィールドワークを実施する。
- (2) 2年生は、「教師と生徒がともに生き方を考える体験・研修旅行」を発展させる。A) 農作業体験をしながらの田舎暮らしを学ぶ（新潟県魚沼市）、B) 長崎の文化・歴史を学ぶ、C) 沖縄の歴史・文化・自然を学ぶ、D) 韓国の歴史・文化の学習および現地の高校生との出会い、E) 米国ホームステイ（インディアナ州・カリフォルニア州）、の中から選択させて1年間の授業と実地研修を行い、内容を深めていく。

9 国際交流活動の推進

- (1) 年間の留学生を受け入れ、留学生の学習と共に明学生との交流をすすめる。
- (2) 総合学習の一環として実施しているアメリカ・ホームステイプログラムの中で、インディアナ州パデュー大学、ロサンゼルスとサンフランシスコの日系教会との交流をすすめる。
- (3) 総合学習の一環として友好協力校の提携をした韓国の京花（キョンファ）女子中学高等学校、京花女子 English Business 高等学校との交流をすすめる。

10 防災教育・訓練、熱中症対策等の強化

- (1) 地震・火事などを想定した防災訓練を各学期に1回実施する。東京私立中高協会第二支部と連携し、災害時の情報伝達訓練を実施する。
- (2) 大学と連携しつつ、全校生徒が3日間利用できる食料・水、毛布などの防災用品の整備、「防災マニュアル」の徹底などによって、緊急時に備える。
- (3) インフルエンザ対策のマニュアル作成、サージカルマスク・消毒液などの備蓄を行う。
- (4) 体育館の大型冷風機の補充、補水液の整備など、熱中症対策を講じる。
- (5) 高輪消防署と連携して、教職員向けの AED（自動体外式除細動器）講習を引き続き実施する。また、校内に設置してある AED（3箇所）を定期的に点検整備する。

【学生・生徒の募集計画】

- 1 様々な角度から志願者の動向を見極めて、質の高い入学者の確保に努める。このために教職員全員で学外の学校説明会、学内の学校説明会に積極的に取り組む。また、予備校や塾主催の学校説明会についても取り組んでいく。さらに、学校案内やホームページの充実を図る。
- 2 基礎学力を向上させるために、推薦合格者に基礎力確認テスト（英数国）を行い、入学前から指導する。
- 3 2014年度募集計画

募集人員 男女 330名（前年度同数）

募集方法 推薦入試 1回（120名）

一般入試 2回（第1回 150名、第2回 60名）

4 広報活動 学校説明会（校内 6 回、校外 11 回）

【その他の特記事項】

1 高校の将来構想

校務運営委員会、白金キャンパスグランドデザイン準備委員会高校調査チームと共に教職員全員で確認した「将来構想」をさらに煮詰めていく。これを基に、明治学院創立 150 周年事業計画にある校舎改築プランを進めていく。

2 校舎改築に向けての準備

収入の増加および経費のさらなる削減を目指し、第 2 号基本金による改築資金の充足に努める。

3 自己点検・評価の実施

年度の終わりに、自己点検・評価を実施し、理事会に報告する。

4 外部の専門機関による評価

外部の専門機関による高校の評価を実施し、教育活動の点検と見直しを行う。

5 教職員・PTA・同窓会がひとつになって明治学院創立 150 周年記念事業・行事及び募金活動を推進する。

【明治学院中学校・明治学院東村山高等学校】

【新增設計画】

2013 年 4 月の改組・増設はなし

【教育・研究における重点分野】

本校の教育理念である「贖罪と愛による教育」は、道徳人・実力人・世界人の陶冶を目指す教育のことである。つまり、イエス・キリストの言葉を心に宿らせ、神さまの比類の無い愛と赦しを学び、教職員と生徒が、深い人格の交流によって共に切磋琢磨し、自己変革し、成長を喜びあう教育を目指すものである。

【道徳人】神さまが与えてくださった使命に気付き、世界に満ちる恵み、感動、神秘に目を見張ることのできる感性を持った人のことである。つまり、自分に与えられた権利と果たさなければならない義務とをわきまえ、規律を守り、神さまと人々とを心から愛することのできる人となることである。

【実力人】キリスト教に基づく人格教育の力強い働きかけによって、揺り動かされて覚醒し、自分の歩むべき道を見定めることのできる人のことである。つまり、神さまが与えてくださった能力や特質を遺憾なく発揮し、神さまと人々とに謙虚に仕えることのできる人となることである。

【世界人】国籍や民族などを超えて、世界的視野と行動力とをもつ人のことである。神さまが比類のない愛によって支えてくださり、この世界にいのちを与えてくださった存在の意味を知り、自分と同じように神さまから愛されている人々のことを心に留め、世界の平和と隣人の幸福を祈念しつつ良き働き人として奉仕する力を持った人となることである。

以上の理念に沿った具体的な教育活動を進める。

1 キリスト教教育

(1) 礼拝

ア 本校のクリスチャン教職員だけでなく、各地で活躍する本校出身の牧師や、献金を継続的に送っている施設・団体の関係者、また近隣教会の牧師を招いて特別礼拝を開催し、礼拝の充実をはかる。特に 2013 年度は学院創立 150 周年を覚えて、卒業生のクリスチャンを礼拝奨励者に迎える機会を設ける(年間 10 回以上)。

イ 明治学院全体との精神的つながりを深めるため、学院牧師をはじめ、学院の理事・監事・教職員の礼拝での説教・奨励を積極的に行う。

ウ 定期的に音楽による礼拝を行う。

エ 英語ネイティブ・スピーカーの奨励者による英語礼拝を行う。

(2) ボランティア活動

ハンドベル部、ブラスバンド部による教会や病院・老人ホームでの演奏、将棋部の老人ホームでの対局、家庭科の体験学習等、地域社会のニーズに応えるボランティア活動を展開する。

中学では教科・行事でのボランティア学習、高校では支援型ボランティア活動を継続し、フィリピンの経済的に困難な子供の就学支援、タイのエイズ孤児への学費・生活費支援活動の充実をはかる。

(3) キリスト教学校教育同盟関東地区中高部会による榛名ワークキャンプに継続して参加する。また、学院主催の小諸ワークキャンプに生徒が参加できるように努める。

(4) 音楽の教科と連携して生徒全員への讃美歌指導を行う。また、希望する生徒を選抜して学院オルガニストによるオルガン指導をすすめる。さらに、キリスト教活動委員会の指導で聖歌隊の組織化をはかり、特別礼拝等で礼拝奉仕をする。

(5) キリスト教教育懇談会

近隣教会の牧師や教会学校教師等を招いてキリスト教教育懇談会を定期的に開催し、本校キリスト教教育の充実をはかる。

(6) 教職員のキリスト教教育研修

キリスト教活動委員会主催で校内研修会を行い、キリスト教学校教育同盟他が主催する研修会等に積極的な参加を促す。

(7) 東日本大震災被災者への支援、交流

2013年度は150周年行事の一環として、東北の震災被災地への音楽クラブの演奏・交流派遣を計画する（13年12月、14年3月）他、中高で可能な援助を継続する。

2 学院創立150周年・東村山高校開校50周年記念事業・行事の取り組み

(1) 150周年記念事業として校地整備事業を、向こう3年を目途にグラウンドの人工芝化、武蔵野自然林でのビオトープ（生息空間）設置、正門改修等を計画し、工事の具体化を図る。記念事業の募金活動を推進し、中学棟・チャペルの改築については、長期の資金準備を継続する。

(2) 記念礼拝を4月8日に、中高別に一学期の始業式を兼ねて行い、記念の1年間と位置付けて諸行事に取り組む。記念品を作成し配布する（A：東村山高校記念小冊子、B：写真立て、C：絵葉書、D：デザインクリアファイル、E：携帯エコバッグ）

(3) 卒業生のクリスチャンを礼拝奨励者に迎える機会を設ける（年間10回以上）。また、卒業生等を講師に建学の精神に合う内容で在校生への講演会を行う。

(4) 150周年行事の一環として、東北の震災被災地への音楽クラブの演奏・交流派遣を計画する。（13年12月、14年3月）

(5) 在校生記念コンサート（オペラシティ）、インブリー先生記念スポーツ試合東大附属中等学校対明治学院の軟式野球試合（神宮球場）に参加する。

3 カリキュラムの検討と学力の向上

(1) 「新学習プログラム」の継続実施

ア 中高6年間に到達目標ごとに2学年毎の3ステージに分ける。

イ 中1・2の2年間は基礎・基本を確立する期間とし、生活習慣・学習習慣の定着により、その後の学習・生活の土台作りと位置付ける。

ウ 中3と高1の2年間は、明確な自己の使命感・職業観、これを特にベルフと呼んで、それをもとにした的確な進路選択ができるようにキャリアガイダンス、及びキャリアデザイン教育を行う。

エ 高2・高3は他大受験コース（理系・文系）と明治学院大学推薦進学コース制とに分ける。

オ 受験コースでは難関大学合格を目指す。その為、受験指導・授業及び校内講習の充実をはかる。

カ 推薦進学コースでは、卒業後に明治学院大学で学ぶことを前提として、大学で学ぶ基礎力（アカデミック・リテラシー）を養成する。その内容は、少人数のゼミ形式による調べ学習・レポート作成・発表、明治学院大学の専任教員を招いての特別授業の組み合わせである。さらに、高3の3学期には、J.C.バラ・プログラム、大学入学前教育（リメディアル教育）等を大学と共同して行う。（→5 中高大連携の推進）

キ 先取り学習、少人数・習熟度別授業（英語・数学）、補習・講習の充実、補習担当講師・チューター制度、自習室整備等によって学習の態勢を強化する。また、図書館を活用した学習の為に図書館施設・態勢の整備を図る。

【中学】英語では、プログレス 21（英語教育メソッド）の授業効果を上げるため、ネイティブ・スピーカーの分級授業、下位層の補習等、手厚い英語教育を展開する。数学では少人数・習熟度別授業、先取り教育を行う。また、実験・実習・観察を重視するカリキュラムを構築する。学習に対する理解が遅れている生徒への補習制度並びに、学力の一層の向上を目指す生徒への講習制度をさらに充実したものとする。

【高校】少人数・習熟度別授業等で生徒のニーズに合わせた授業を展開する。プログレス 21 の授業効果を高めるために、一クラス二分級の習熟度別クラス編成を行う。高2・高3の受験状況に応じたコース制（明学大受験・他大学受験・その他）により、教育効果を向上させる。教科に対する理解が遅れている生徒への補習制度並びに、学力の一層の向上を目指す生徒への講習制度を一段と充実したものとする。また、大学院生・大学生による生徒の自習補助体制チューター制度を確立する。

(2) シラバスの整備

「新学習プログラム」および新学習指導要領に基づいた新カリキュラム並びにシラバスを整備・公開しているが、これによって入学から卒業までの各教科・学年、各ステージの教育目標・内容を明確にして、自己点検評価の基準とする。

4 生徒の多様な進路実現のためのきめ細かい指導

- (1) 3年間ないし6年間の土台を作る導入期の集団作りに配慮し、学びに向かう集団作りをする。併せて、基本的生活習慣を確立し、自律の精神を養う。
- (2) 大学受験を生徒の自立にとって大切な機会と捉え、人生を切り開く力を養う。
- (3) 個々の生徒の成績分析会及び面接を大切にし、成績面ばかりでなく、自分の将来を切り開くことのできる生活全般の指導を実施する。
- (4) 定期的にステージごとの会議を開催し、達成度の確認、指導法の研修を行う。
- (5) 生徒たちが自分の進路を見定め、進路選択の指標を得られる様に「進路ノート」を作成・配布する。

5 中高大連携の推進

「明治学院一貫教育宣言」により明記された一貫教育の課題を積極的に担う。

- (1) 明治学院大学系列校特別推薦入試に関する情報交換を密にし、特別推薦入試に相応しい生徒の進路指導を徹底する。また、一貫教育の特色を生かし、明治学院のアイデンティティーを持った生徒・学生を育てるように努める。
- (2) 明治学院大学推薦進学コースの高3生には、アカデミック・リテラシーの科目によって大学での研究基礎力をゼミ形式で養うとともに、大学教員が直接授業を行うことによって、生徒が最新の学問内容や水準に触れて知的関心を高めるとともに学科内容を正しく知る機会（年間約15回）とする。

- (3) 大学と協力して大学入学前教育として行われる、経済学部・社会学部・法学部による課題の実施、法学部法律学科や国際学部国際キャリア学科による学科説明会、並びに教養教育センター主催の「J.C. バラ・プログラム」に積極的に取り組む。
- (4) 中高スピーチコンテスト審査員として大学教員の派遣を依頼し、中高生の英語力のレベルアップをはかると共に、英語教育の相互理解をすすめる。
- (5) 中1の白金キャンパス訪問、高1の横浜キャンパス訪問を継続して行う。
- (6) 英語教育検討会議に参加し、中高大の一貫教育における英語教育の向上をはかる。
- (7) 臨床心理士資格取得を目指す大学院心理学研究科学生の実習受け入れ、他学部からの教育実習受け入れ、ボランティア活動の共催、教科教育活動並びにアカデミック・リテラシーでの協力関係など、中高大の一層の連携強化に努める。

6 行事・課外活動の充実

- (1) 体育祭、6月プログラム（修養会・研修旅行）、臨海教室、へボン祭(文化祭)、クリスマスの集い、合唱祭などの行事を、学院創立150周年の記念行事として位置づけて実施する。生徒たちの主体的な運営によって、自主性・協調性を育み、また成功に活かされ、失敗に学ぶ体験の積み重ねによる自立を促す。
- (2) 授業と部活動、家庭学習のバランスのとれた学校生活を送れるようにする。
- (3) 部活動の活性化を図るため、活動場所の整備に努める。公式戦直前には限定的に練習時間の30分延長を行う。

7 教育研究活動の充実

- (1) 生徒を取り巻く教育状況や生徒の心理について、「保護者と教師の研修会」（2012年度で30回開催）や保護者会などを通して、教職員、スクールカウンセラー、保護者が共に学び、話し合う機会を増やす。
- (2) 教職員の資質向上の為に、テーマを設定して校内研修会を行うと共に、校外研修会の参加を促す。
- (3) 教員の研究研修費規程に基づいた適正な執行により、教育・研究活動の充実を図る。
- (4) 教員免許更新制度の推移を見守り、適正な運用をする。また初任者研修を年間を通して継続実施する。

8 学校評価

本校の自主性・自立性を高める為に、教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指す。学校としてステークホルダーに説明責任を果たし、家庭や地域との連携協力を深めていくことが必要とされており、年度末に以下の項目について理事会に報告をする。

(1) 教職員キリスト教研修会

学期毎の教職員キリスト教研修会で、本校のキリスト教教育の評価と展望を共有する。クリスチャンであるなしに拘わらず、キリスト教教育を共に担う研修を行う。

(2) 教職員11月研修

学校運営について継続的に点検・改善する為に「11月研修」を行う。教職員が学校運営で直面している課題の改善に向けて中間点検を行うと共に、次年度の学校方針について検討する。

- (3) 客観的英語教育評価を得るためGTEC（Global Test of English Communication）を中2から高3まで年2回を基本に継続実施する。受験ばかりでなく社会や留学先でも使える英語力を育むために「読む・聞く・書く」の3技能の到達度を測る。また英検、数検の受験を促す。

- (4) 外部専門業者を活用した学校（授業）評価を行う。

(5) 地域との交流

近隣住民との懇談会により地域との交流・親睦を深めると共に、学校評価を受け、学校運営の改善に役立てる。地域商店街や自治会、並びに日体桜華高、明法中高と共催で、観桜会を開催するのをはじめ、文化活動や生活指導面の交流を深め、協力関係を強化する。

9 国際交流

- (1) 高校生を対象とした本校独自の40日間ホームステイを充実させる。米国のクリスチャン家庭で過ごし、生活の中に活かされているキリスト教に接して、その社会や文化について理解と友好を深め、国際社会に貢献することのできる人材を育成する。
- (2) AYUSA (Academic Year in USA) や YFU (Youth For Understanding) を利用した長期留学制度を奨励する。
- (3) 中3を対象とした語学研修と異文化体験のプログラムとして、サマーキャンプを継続して行う。13年度はワシントン州シアトルを拠点として実施する。
- (4) 本校への留学生の受け入れに努め、「世界人」としての自覚を持てる教育環境を整備する。
- (5) 東村山市の姉妹都市や AYUSA 等からの留学生との交流を深める。

10 防災教育・訓練、防犯対策・夏季暑さ対策の強化

- (1) 火事・地震などを想定した防災訓練を実施する。東京私立中高協会第11支部と連携して災害時の情報伝達訓練を実施し、また東村山消防署の協力を得て教職員向けの救命・AED講習を引き続き実施する。さらに防災士講習に教職員を派遣して、専門知識と資格を有し、防災対策の中核となりうる人材を複数名養成する。
- (2) 帰宅困難時の全校生徒が3日間待機できる食料・水・保温シート・簡易トイレなどの備蓄やAED(3箇所)に設置)の点検整備を定期的に行い、これらの拡充に努める。
- (3) 緊急時の連絡方法を見直し、生徒・保護者へは現行の学校ホームページでの告知に加えて一斉メールを導入する。また学院の白金・横浜キャンパスとの非常用連絡手段として衛星電話を導入する。
- (4) 防犯カメラ(12箇所)に設置)の点検整備を定期的に行う。
- (5) 防犯訓練、通学路の安全点検を行う。
- (6) 新型インフルエンザ対策として、サージカルマスク、消毒液の備蓄をすすめる。
- (7) 夏季の暑さによる光化学スモッグや熱中症の被害防止の為に適切な対策を講ずる。

〔学生・生徒の募集計画〕

1 数年前までの中学受験ブームは不況で鎮静化し、デフレと東日本大震災の影響もあって受験率は低下したままである。私立中学校は、受験生獲得の為に共学化、入試回数の増加(午前・午後入試)、入試日程の前倒し、中高一貫校での高校募集停止など、様々な入試を行っている。高校募集では、都内公立中高一貫校は進学実績を上げて注目されており、埼玉県公立中学校の県内の高校への進路指導と相まって、本校への影響が懸念される。本校としては、2014年度の入試状況を継続して検討し、多数の受験生を一層確保することに努める。

また、入学から卒業までのシラバスを明確に示して「新学習プログラム」の周知をはかる。本校の教育内容について正確な情報を発信し、受験生が本校を正しく理解して選択できるように、教職員全員で積極的な広報活動、募集活動を担い、総力を挙げて本校に相応しい生徒を獲得できる体制をとる。校内説明会中学6回・高校4回、外部合同説明会中高合計40数回のレベルを保ち、小・中学校や塾への訪問を行い、パンフレットを直接持参して教育内容の周知を目指す。

(1) 中学入試

試験日は2月1日午後(2科)、3日・4日午前(各4科)の計3回の実施とする。面接試験は実施しない。

(2) 高校入試

推薦入試募集定員を引き続き40名とするが、推薦条件を再検討し、質の高い生徒を獲得する方策を検

討する。一般入試試験日は2月12日とする。また併願優遇制度によって公立高校との併願をし易くする。

2 募集活動については、引き続きコンサルタント会社に受験データの分析と次年度に向けたアドバイスを求めて改善を進め、多くの受験者の確保をはかる。

3 2014年度生募集計画

募集人数

中学 140名（前年度同数）

高校 240名（新入生120名、移行生120名）（前年度同数）

募集方法

中学 一般入試（3回実施、午後入試1回、午前入試2回）

高校 推薦入試（新入生120名のうち約40名）

一般入試（面接・併願優遇制度あり）

【その他の特記事項】

1 2012年度で完成した「新学習プログラム」の定着と進化をはかり、教育活動の活性化に努める。教員については、人件費の状況を精査して1名増員を行う（国語科）。また、高校卒業時の英語力向上策として、高3三学期に進路決定者を対象として、英検、TOEFL受験の補習を実施する他、希望者（10名以上）を募って3週間の米国英語研修を実施する。

2 戦略的な学校経営の一翼を担う事務室の体制作り、能力向上と共に、広報・IT対応の強化を目指し、中長期の施設維持管理計画に基づく適正な管理に努める。

3 財政の安定化を目指した収入増加と支出の厳正管理をはかる。生徒納付金収入だけに頼るのではなく、寄付金（教育振興資金）応募の呼びかけを強化する。

また、（株）明治学院サービスの活用により、教室貸し出し等による収入の増加を図る。

4 卒業生（同窓会員）への働きかけを強化し、文化祭でのBack to The Campus（同窓会の企画）の充実、卒業生の成人式および還暦の祝い等、同窓会との協働で卒業生の母校愛の結集をはかり、今後の教育を支える協力・連携体制を強化する。

5 150周年に向けて記念事業を推進する。

(1) グラウンドの人工芝化、武蔵野自然林でのビオトープ（生息空間）設置、正門改修等、キャンパス外構工事を具体化する。

(2) 中学棟・チャペルの改築について、資金準備を継続する。

(3) 教職員・PTA・同窓会がひとつとなって記念事業・行事、募金活動を推進する。

6 JR新小平駅と本校及び日体桜華高・明法中高を結ぶバス路線は、便数不足もあり利用生徒数が伸びない状況が続いている。埼玉県・神奈川県在住の生徒獲得のために必要な路線であるので、存続の方策について近隣3校と協力して打開策を講ずる。